

平成29年度第4回滋賀県総合教育会議の結果について

文教・警察常任委員会資料
平成30年(2018年)2月9日
教育委員会事務局教育総務課

会議次第

平成29年12月26日(火)
14:00~16:15
滋賀県大津合同庁舎7B会議室

議題

- 子どもたちが滋賀に触れ、滋賀を愛し、滋賀を豊かにする力を育むために
～「滋賀ならではの」を生かした教育活動の推進～
- 社会全体で子どもたちを育てる滋賀の教育を目指して

八日市高校書道部のみなさんに横断幕を書いていただきました。



本年度は年間を通じて、子どもたちの個性やその多様性に寄り添う教育について様々な観点から議論していくことを第1回会議にて確認されました。その内容を踏まえ、第4回会議では前半に「滋賀ならではの」を生かした教育活動の推進について、後半には「社会全体で子どもたちを育てる滋賀の教育」について意見交換を行いました。

1. 子どもたちが滋賀に触れ、滋賀を愛し、滋賀を豊かにする力を育むために ～「滋賀ならではの」を生かした教育活動の推進～

事務局から県内の地域学習の現状を説明した後、学校現場での取組について大津市立真野北小学校 山元 千恵子 校長 より説明をいただき、意見交換を行いました。

主な意見等

- ・自分の地域の魅力を知ると他の地域と比べられる力もつく。また、他の地域を知るとは自分の地域を知る上でも大切である。
- ・地域のことを地域で大切にすることは重要であるが、他の地域や世界と繋げ、開かれたものにすれば、持続可能な地域につながる。
- ・コミュニティ・スクールによって、学校の取組を地域に発信するのみならず、学校運営方針の承認等で地域の方が学校に関わってくれるようになり、地域との関係がより強くなった。
- ・自分たちの地域、滋賀の魅力に気づくことができるよう教員、学校が感性を磨き、またそういったことに気づくことができるゆとりが必要である。

2. 社会全体で子どもたちを育てる滋賀の教育を目指して

事務局から子どもたちの生活習慣や家庭での時間の現状等の説明をした後、滋賀ダイハツ販売株式会社 取締役 平尾 香子 氏より企業としての立場、また保護者としての立場から話題提供をいただき、意見交換を行いました。

主な意見等

- ・子どもに「褒める」、「叱る」ということは、家庭で愛情をもってするからこそ成り立つ。子どもたちの生活習慣等の基礎が家庭で作られることで、学校での教育にもつながる。
- ・家庭での親子の対話があってこそ生活習慣等が培われる。例えば、スマートフォンについても、取り上げてしまうのではなく、親子のコミュニケーションの手段として、今あるものを有効に活用するという前向きなメッセージの発信が必要。
- ・幼児期からの過ごし方も非常に重要であり、家庭での教育のあり方についても考える必要がある。
- ・家庭に対して教育行政がどのように関わっていくかは非常に難しい。